

野外運動研究室ニュースレター

編集：筑波大学野外運動研究室広報係発行
発行：筑波大学体育系野外運動研究室
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
TEL/FAX 029-853-6339
URL <http://yagai.tsukubauniv.jp/>

【巻頭言】 室員になって3年目

藤田花子 (研究生)

近頃、家路に就くときは、白い息を吐きながらきまって高い空を見上げます。そのとき必ず目に入ってくるのはオリオン座で、頬を刺す冷たい風に瞬きが速くなるのもいつものことです。そんな日々の繰り返しの中で、2015年という新たな年も迎えました。遅ればせながら明けましておめでとうございます。

研究生という立場で「あと少し、野外研に関わらせてもらう」、そう決めてからもうすぐ1年、コンパスも地図も持っていない…そんな昨年度末の状況が一転したのは、先生からこの一年間のお話を頂いてからでした。「貴重な機会を与えて頂いて、恵まれた環境に身を置くのだ。今年はどうも野外に浸ってたくさん学ぼう。」在籍のための書類を準備しながら心に誓ったことは、今でも替わらない軸として私を支えています。実際にも、先生の計らいもあり実習や研修にたくさん関わらせて頂きました。

夏には今年で3年目になるアドベンチャーキャンプのPDも務めました。このキャンプには1年目からスタッフとして入っていましたが、今までは先輩方が奔走している姿を間近に見ながらも、自分の力の及ばないところの話だと思っていました。それが今回は先輩たちが通った道を自分が踏むのです。それはそれは恐れ多く、逃げ出したいと何度思ったことでしょうか。泣き言を零したこともありましたが、先生や先輩からの叱咤にひどく落ち込みもしました。しかし、こんな私を信じて任せて下さっている、そのことに報いたいという思い、そして何より、その先にはキャンプ本番を楽しみにしてくれている子どもたちがいるという事実が、純粋な原動力となりました。閉村式で見た子どもたちの涙を思い出せば、今も胸に込み上げてくるものがあります。長、PD、MD、装備、カウンセラー、本部付スタッフ全員が支えて一つのキャンプがなる、そう実感しました。至らないことだらけだった私自身は先生、先輩、同期、後輩、キャンプスタッフ全員に支えられていました。迷走時に貰った激励に何度救われたことでしょうか。深く感謝しています。本当にありがとうございました。

野外研に入ってから、素敵な仲間と掛け替えのない貴重な時間をたくさん過ごしました。野外研に入る前の20年間も、「今の自分」を成すには大切な人生だったと認めることもできました。失敗も、悩んだことも、全てが明日につながる好い経験であり、大切な学びとなっています。

「別れ」には生きることの辛さを改めて覚え、「出会い」には生きる世界が広がることの楽しさを深く感じました。1年後ですら何が起きているのかわかりません。しかし、地図を広げながら、コンパスを当てながら、ふらふらと、その時々目的地向かっていけたらいいと思います。

来年度も、野外研にはまた新しい素敵な出会いがあるのでしょうか。私にとって振り返る日々が糧になっているように、後輩たちにとっても、そうなる時間が詰まっている1年となるのでしょうか。

笑顔が溢れる日々になりますように。

【正課事業報告】

○秋学期実技理論実習「デイキャンプ」

指導員：佐藤冬果、山川晃、藤田花子、大友あかね、

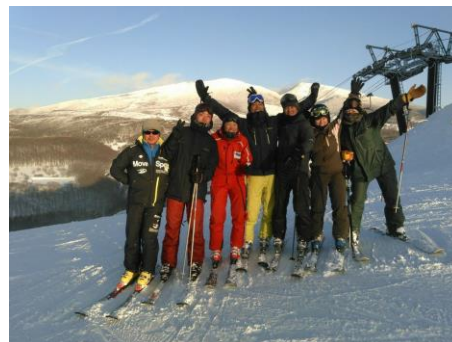
大友 あかね(MC1)

11月19日に筑波大学野生の森で、体育専門学群2年生、実技理論「野外運動」の授業のまとめとして、デイキャンプが実施された。デイキャンプまでの毎週の授業では、ロープワーク、テント設営、火起こしなどの野外活動の基礎を学んだ。授業のまとめとしてのデイキャンプでは、それまでに身につけた技術を使い、野性の森で野外炊事やキャンプファイヤーなどのプログラムを行った。デイキャンプまでの授業においても、非常に積極的な生徒が多く、デイキャンプもとてもいいキャンプになった印象である。これからも、この授業で学んだことを日常生活の中で是非活かして行ってほしい。

○野外運動論演習Ⅱ(雪上)

西島 隆成(UG3)

12/20(土)～25(木)にかけて長野県菅平高原にて専攻生雪上実習が行われた。実習前の準備は思ったように仕事が進まず、



ギリギリの状態を実習を迎えた。初日の雪上運動会では、クロスカントリースキーの板をつけての鬼ごっこやラグビーで楽しみながら汗を流した。2日目から4日目は、菅平高原スキー場にてスキー講習を

行い、その講習の中で、専攻生は実際にスキーの指導することも体験した。5日目の個人別活動では、地図とコンパスを頼りに雪原へとそれぞれが繰り出して行った。

今回の実習は、活動は非常に楽しめた反面、事前の準備の甘さをはっきり感じることができたいい機会だった。この経験を今後の活動に活かしていければと思う。

○ 学群雪上実習

補助員：藤田花子、大友あかね、吉沢直

大友 あかね(MC1)

1月9日～13日に菅平高原スキー場にて体育専門学群雪上実習が実施された。学群2.3年生、62名の参加であった。例年同様、他大学から講師の先生方が来て下さり、実り多い実習となった。スキー講習、根子岳登山を中心とした5日間の中で、実習生同士非常に仲が深まった様子である。本実習のメインプログラムである、根子岳登山では、稜線で強い風に吹かれながらも、全班登頂を果たし、この実習で初めてスキーを履いた学生から、上級者まで、グレンデとは一味違ったスキーを思う存分楽しむことができた。また私自身、他大学から来てくださった先生方からスキー以外にも沢山のことを学ばせていただいた。卒業後のつながりという面で、また一つ野外運動研究室の魅力を知ることができた。



○ 2014 秋学期種目別コーチング演習Ⅱ

参加者：佐藤冬果、山川晃、大友あかね、吉沢直

山川 晃(MC2)

2014年11月15日(土)から16日(日)にかけて、山梨県甲府市、長野県南佐久郡川上村の金峰山&瑞牆山に登ってきた。参加者は野外研から渡邊先生、佐藤(M2)、



山川(M2)、大友(M1)、吉沢(UG3)の5名、加えて『2014秋学期種目別コーチング演習Ⅱ』の受講生である体育専門学群2年生3名、合わせて8名で、野外研チーム、受講生チームの2グループに分かれて登ってきた。15日の金峰山山頂、16日の瑞牆山山頂ともに素晴らしい眺望が望め、下山後は温泉に入り、美味しい昼食を食べて、無事に登山が終了した。冬の始まりを感じる、素晴らしい2日間となった。

【講習会報告】

○ 川崎フロンターレジュニアユース ASE

指導員：佐藤冬果、山川晃、北川武、川崎渉

佐藤 冬果(MC2)

2015年1月12日(月祝)に筑波大学野性の森にて、川崎フロンターレジュニアユース、中学1～2年生の36名を対象に、ASE研修が行われた。4グループに分かれた参加者たちは、初めこそ緊張した顔をしていたが、徐々に本来の明るさが見られるようになり、アクティビティには、元気いっぱいに出声しながら取り組んでいた。食事では卓上BBQコンロが初登場し、班ごとに肉や野菜を焼く新しい試みがなされ、参加者たちも非常に楽しそうに過ごしていた。今回は川崎(UG4)の班担当ファシリテーターとしてのデビュー戦でもあったので、温かく見守りつつ、年度初めには非常に不安げだった北川が、先輩として指導のアドバイスをしている姿に、頼もしさを感じることが出来た1日であった。

【個人実践報告】

○ 大学交流スキーキャンプ

参加者：佐藤冬果、山川晃、大友あかね、吉沢直

吉沢 直(UG3)

12月6(土)から7日(日)にかけて、長野県エコーバレースキー場で筑波大学から4名、大阪体育大学から3名、び

わこ成蹊スポーツ大学から1名、合計8人でスキー研修&交流をしてきた。

普段大学の中に籠っているだけでは語り合えないこと、他大学の野外のことについて情報交換を、野外について学んでいく我々についても考える素晴らしい時間になった。

同年代で、同じ「野外」を志す仲間との繋がりが出来た&深まった今回の交流は今後にも影響を与えてくれるのではないかと思います。今回は3大学しか集まらなかったのも、また、次回開催に期待!

編集者：黒須雄翔